

## 資料

### 名古屋の寺院に関する

#### 木版資料について（十三）

川口 高風

三、毘沙門天王於御宝前開運福引

毎年正月十五日に行われる法応寺（千種区青柳町）の毘沙門天王の開運福引の広告で、惣あたり二〇〇本福引の圖であった。

四、日蓮聖人涅槃圖

日蓮聖人の涅槃圖で、日蓮門下や帰依者などが嘆き悲しんでいる様子を描いている。本遠寺（熱田区白鳥）に所蔵する涅槃圖を木版刷したものであるが、刊行年次は不詳である。

五、日親大聖人御難之図

日親聖人（二四〇八一—一四八八）は、厳格な法華信仰者であったため投獄され刑罰を受けた。受刑の時の御難の図で、聖人の剃髪得度から示寂までの間の御難や功績などが描かれている。

真柳寺（東区東桜）から木版刷で出されたものであるが、刊行年次は不詳。

二、毘沙門護世之天尊略縁起

文化十二年（一八一五）三月に、法応寺（千種区青柳町）九世勝空嶺超が記した法応寺に安置している毘沙門天の略縁起である。この毘沙門天は多聞天王で、弘法大師の彫刻といわれ、法応寺が清洲にあった南岳院の時代、織田信長公に信仰され、出陣すると勝利したといわれ、信長公は尊像をいつも持っていたといわれる。

六、蓮如上人御木像縁起

毎年三月二十四日より二十六日までは、拝礼のできる光円寺（中川区万場）に安置されている蓮如上人木像の縁起である。常陸国真家の郷の明円寺に安置されていた木像が浄光寺、枕石寺、光円寺へと譲り請けてきたことの一枚刷の縁起書である。

## 七、尾州名古屋 白川町法蔵寺 釜出地蔵菩薩略縁起

法蔵寺（千種区春岡通）の地蔵堂に安置されていた釜出の地蔵尊の略縁起である。釜出地蔵は木像の立像で、矢場地蔵、宝積地蔵とともに尾張三地蔵の一つである。法蔵寺からは親鸞聖人の持仏といわれ、俗に指折の尊像と称された指折尊像の略縁起も木版刷で刊行されている。

## 八、奉擬日本西方四十八願所名古屋御城下巡拝

西方四十八願所に擬して、名古屋御城下三十七カ寺と熱田寺院十一カ寺を巡拝するための一枚刷名簿で、現在の案内図にあたる。「阿弥陀如来四十八願所」（本連載（四）所収）と同じであるが、五番貞祖院と四十四番亀井山が反対になっている。

## 九、五百羅漢供養簿

大竜寺（千種区城山新町）では、春秋の彼岸ごとに安置している五百羅漢の名号を唱え、礼拝供養する。そこで、各方面から戒名などを記して、両彼岸に永代供養する供養簿の序文である。

## 十、小野篁御作延命地蔵大菩薩略縁起

芳珠寺（千種区今池）に安置する小野篁作の延命地蔵菩薩の略縁起である。京都六道の辻、伊予松山の篁寺、それに当寺の尊像の三体は、小野篁が尾張に来た時から彫刻したもので、霊験

あらたかなるものである。

## 十一、神社仏閣諸宗旧跡安置百万遍大念珠建立

神社仏閣及び諸宗の旧跡、霊場に百万遍の大念珠を安置したならば、参詣の功德の縁を結ぶことができる。そのため大念珠の内に施主名や先祖の法名を記して、百万遍の功德を得んことを願った文の序である。栄国寺（中区橋）より刊行されている。

## 十二、尾府矢場地蔵尊縁起

清浄寺（中区大須）に安置する地蔵菩薩の縁起で、「矢場地蔵菩薩縁起」（本連載（二）所収）とは文が異なり、それより古く江戸期に刷られたものであろう。諸国を行脚する善入という念仏者が、越中立山に登らんとして麓に止宿した夜、夢中に高僧が出現して、善入に告げたのは獄苦の衆生を濟度する地蔵であった。初め濃州可児郡嵩村に安置し、その後、当国に移った。そこで、別堂を建立して尊像を移している。

## 十三、敬円寺相統講

敬円寺（中区松原）の相統講の講元世話人名や相統講の懸金、闍引についての仕法書をあげている木版刷である。

## 十四、四宝山珉光院円通寺略縁起

珉光院（名東区平和が丘）は源義近の開基で、義近は父義朝が

逆心により殺害されたところから出家して建立した寺である。天台宗の古刹で伊勢国桑名郡長島にあったが、海東郡萱津へ易地した。親鸞聖人が関東より帰郷の途次に宿泊したため、時の住持は勸化を受けて弟子となり、真宗大谷派に改宗して名古屋に移った。寺の略縁起と聖徳太子尊像の霊像なることを述べている。

#### 十五、鯨名物

「鯨名物」は、天保初年（一八三〇―四〇）に板行された尾張・名古屋地方における特産品の番付である。世話人として八事山（興正寺）の五重塔、大須（観音）の五重塔、長寿寺の楓、総見寺の霧島、長栄寺の芍薬があげられている。

#### 十六、古今尾州味噌見立相撲

天保七年（一八三六）に板行された尾張・名古屋地方の名物番付で、宮重大根などの特産品の他に、歴史的人物なども紹介されている。「前頭」に古書籍の日本一として大須観音の真福寺文庫、比丘尼の日本一として誓願寺があげられている。なお、「古物の頭取」として七寺の経唐櫃、笠寺の釣鐘、「絶景の世話人」として龍泉寺の仏坂をあげている。

#### 十七、金毘羅大権現勸化帳

熱田旗屋町にあった延命院の金毘羅権現の本堂が大破したた

め、万人講を結び、安政四年（一八五七）二月に勸化を願った勸化帳の序文である。なお、金毘羅宮境内略図は（本連載（六）所収）で紹介されている。

#### 十八、安齋院梵鐘勸化文

明治二十六年二月に、安齋院（東区東桜）より梵鐘を铸造するための勸募金を願った勸化文。

#### 十九、慶栄寺本堂再建上棟式遷仏供養大会

慶栄寺（西区那古野）は永正元年（一五〇四）に善正の創建で、三世寿玄が名古屋皆戸町へ移し、さらに七世哲休が、狭地のため現在地に移転して本堂を再建した。大正八年には不慮の火災に罹り、檀信徒の勸進によって同十二年五月に工事が成り、上棟式、遷仏供養を行った。法会の式次第や差定、「太子堂記」などの記念帖が、同年五月二十八日に慶栄寺再建係より発行されている。

#### 二十、沢観音略縁記

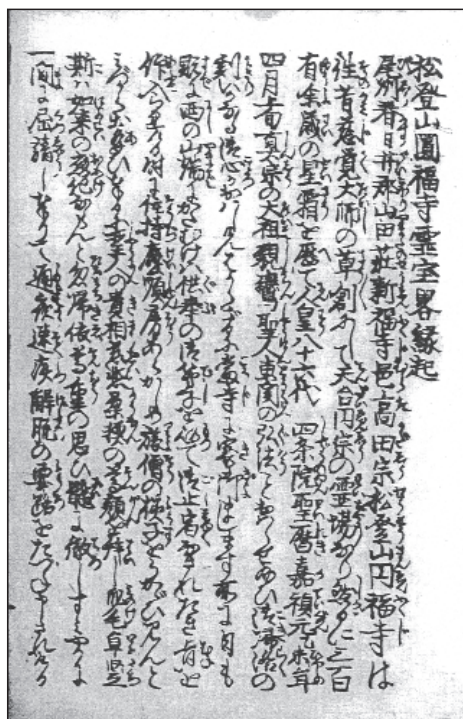
妙安寺（熱田区新尾頭）境内に祀られている沢観音の略縁記である。開基の織田久左衛門正直は、深く弘法大師を信仰し西国の霊場を巡拝していた。ある時、大師が老翁に身をかえて正直に、西国浄土は道遠く難路のため巡拝し難い。そこで自からの邸に、西国三十三所の七観音を集め安置したものである。沢観

音を信仰すれば、西国の浄土を巡礼するのと同じ功德があるという。戦前の昭和初期に発行されたものと思われる。

二十一、道祖金勢大神靈略縁起

妙安寺（熱田区新尾頭）に安置する道祖神靈の略縁起で、良縁を求める人、妊を欲する人、悪病になやむ人が祈願すると靈験が著しいという。「沢観音略縁起」と同時期に成立し発行されたものである。

一、尾州松登山門福寺靈宝略縁起・宝物目録



尾州松登山門福寺靈宝略縁起

松登山門福寺靈宝略縁起

尾州春日井郡山田莊新福寺邑高田宗松登山門福寺は、往昔慈覺大師の草創にして、天台円宗の靈場なり。然るに三百有余歳の星霜を歴て、人皇八十六代四条院聖曆嘉禎元乙未年四月上旬、真宗の太祖親鸞聖人東関の弘法へとおはらせ給ひ、御

名古屋の寺院に関する木版資料について（十三）

帰洛の刻いかなる御心かおはしけん。はからざるに、當寺に寄御まします所に、日も既に西の山端にかたむけは、供奉の御弟子を以て御止宿なされたき旨を仰入られける時に、住持慶順房あらかしめ旅僧の様子をうかがひ見んとみづから出逢ひ奉るに、聖人の貴相慈悲柔軟の尊顔を拝し身毛卓豎、斯は如來の応化ならんと、忽帰依尊重の思ひ髓に徹し、すみやかに一間に屈請し奉りて、通夜速疾解脫の要路をたづね申されける。かくて聖人示してのたまは、真言止觀の法門、是の教ひれ共、澆季濁乱の凡愚は智恵淺短にして、難解難入なり。浄土門のころはしからず、十方衆生の本誓万機普益の法門なれば、仏願に託すれば五乘ひとしく廻入し念仏往生と深信すれば、薄地の凡夫も一念に仏智に冥合して、生仏不二の覺位に登る。ゆめ／＼かたがふ事なかれと。最懇に教誨したまへは、慶順房はじめて弥陀弘願の深旨、凡夫直入の要法を聴受し、立地に自力起行の執情を離れ、他力不思議の真心を成就せり。永く難行聖道の仮門を出、適しく易行浄土の眞門に歸入して則御弟子となれり。聖人當寺にましますこと二日なり。慶順房帰依渴仰の余り御別をおしみあはれ、しばらく

く御滞留をと御袂にすがり、紅涙に咽はれければ、聖人もその志の深厚なる事を感じたまひ、御なみだにくれさせたまひける□命られてのたまは、予は教勸にいとまなく殊に帰洛もいそぐことなれば、再会を京都にて相期へし。さりながら無常転変の境界なれば、互に明日を期しかたし。且は別れての形見、且は念仏往生の証拠とて、御真筆の紺地金泥十字名号、御自尽の連坐の御影、十祖の御影、上宮太子十六歳真向の御影<sup>并</sup> 釈尊の御舍利、笈の内より取出し手づからみづから是を授与し給ひぬ。慶順房この時面授親伝の附属を得て、歎喜身に余り感涙肝に銘して恭しく頂戴して渴仰崇敬せられけり。翌年二月上京して聖人を問拜し、数日滞留して、御教化に浴す。同年八月朔日卯の刻より巳の刻まで、誦経念仏して仏前を退かず。午の刻に至りて、嘗て病悩の苦なく端坐合掌して仏号を唱寐るごとく、往生の素懐を遂げ□れぬ。慶順房より円順、慶円、証順と相続して既に十二世を歴たり。十三世崇順に至りて回祿の災にあへりころは、永祿四<sup>辛</sup>年十一月十一日の夜四更に及ぶころ、忽然と焰おこれり。時にあたりて風猛しく熾然として火煙諸堂にめぐる。近里遠郷の衆徒

群り集り、おの／＼捨命のはげみを成とも、敢て近づくことを得ず。唯本尊及び靈宝什物旧記のみ出し奉る。ここに奇異あり。聖人の御真筆十字名号箱の内に見へたまわす。人々驚疑怪する事限りなし。此彼と尋ね求るに、かの名号焰の裏よりをのづから頭れ出たまひ、境内の高木松の枝上に登りどまらせたまひ、光明赫然として焼難を遁させたまふ。見聞の道俗信伏感歎せずといふことなし。今現に、御光石の方に少し焼矢の所あり。尤不思議の端なり。因茲件の名号を火災遁の名号と伝称して、靈驗世に類なし。又山号をも此時より松登山と改るとかや。しかのみならず、それより五十余回の春秋を過て、慶長十九年<sup>甲寅</sup> 孟秋水難にあへり。蓋當寺并村共に、慶長十九年までは勝川筋堤より北にありしが、洪水にて堤ぎれ、村々寺社民家等あまた流損せり。當寺は其一也。同年九月易地す。嗚呼慶哉。すでに回祿白波の患難にあふて、若干の什物旧記等こと／＼散失するといへども、件の遺宝におもては聊も紛失せしむる事なく、連綿附属して相伝ふる所なり。然れば今聖人の法流を汲て、靈宝拝見の人におもては在世面拜の思ひに住し、知恩報徳の念をいだし、憶念称名敢て懈怠る事なかれといふのみ。



寛永第八<sup>辛未</sup>歳七月十五日

教順書

松登山円福寺宝物目録

一 紺地金泥十字名号

親鸞聖人御真筆

此名号を火災遁れの名号と称号する事由あり。縁起のこ  
とし。

一 連座御影御銘共

同御真筆

一 十祖御影御銘共

同御真筆

一 上宮太子十六歳真向御影

同御真筆

一 釈尊舍利

同御所持

伝<sup>ニ</sup>曰。聖徳太子十七歳の時、西天より十余粒の舍利を  
贈進せしに、その内をわかちて蘇我大<sup>ニ</sup>口へ附与し給ふ。

後に思を転じて聖人の御手に入恭敬渴仰し給ふ云々。別  
に来縁の記是ありしか。幼稚の時紛失して今はなし。

右五種の靈宝は聖人御形見として、當寺開山御弟子慶順房へ  
与へ賜ふ所なり。

一 親鸞聖人御自刻九十歳尊像

抑此尊像は、祖師聖人九十歳弘長二<sup>壬戌</sup>年洛陽三条坊門富の

小路善法院尋有僧都の御許に移りまします時、みづから彫刻  
遊ばし御男子印信和尚を召てのたまは、畢命の期知りがた  
しといへども、予がごときは、今年かならず安養に往ん。浮  
世永別の期近きにあり。夢の世の名残と影をうつしをく。予  
がなきあとの形見ともどもと詠吟ましくて、御落涙とも  
に御影を授与し給ひぬ。時に印信和尚も悲嘆の涙に咽ながら  
敬て、拝受し給ひ一形の間在か如く供給の至誠を尽し給ふと  
也。印信和尚御遷化の後は、常隨の御弟子善觀房護持いたさ  
れるか。終焉にのぞみて當寺三世慶円に授て曰、此真影は  
鸞師御自刻ましくて、則予か師範印信和尚へ賜ふ尊像也。

師の滅後、我是を伝持渴仰せしむる所也。曾て聞足下は聖人  
の法孫郷寺も昔錫を寄給ふ靈跡なりと。我是をたふとむが故  
に、今又此御影を汝に附与すべし。渴仰崇敬いささかも等閑  
ありてなく、永く澆季の至宝にそなへ給ふへしと云ひおほり  
て、即安然として寂す。于時永仁三<sup>乙未</sup>年五月十九日なり。  
蓋慶円は、幼若の時より洛に登り頭密を学する事多年、善觀  
房と断金の親友にして、且同室のよしみ。尤深き故を以てな  
り。慶円今はからざるに、祖師の真影を感得して身心悦予す

る事孩児の悲母にあへるがごとし。則袈裟につゝみて箱にお  
さめ、みづから負奉り、速に国に帰て當山に安置す。自于以  
来歴代相伝へて當寺重宝と仰奉るものなり。

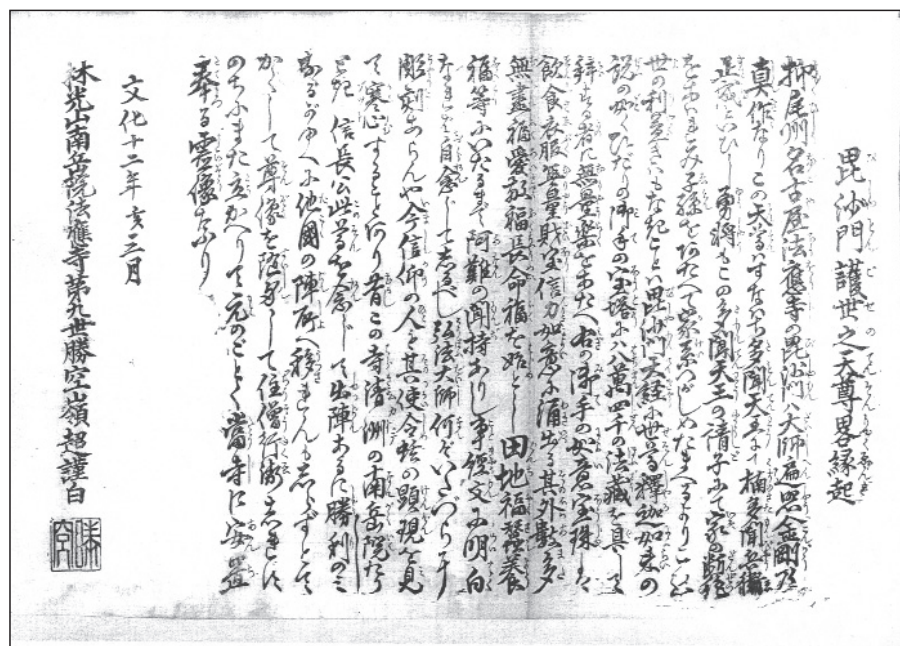
右の外、歴代の住持より伝来の至宝数多、これ有といへと  
も略してこゝにのせず。

寛永第八 辛未 歳七月十五日

松登山円福寺十五世

教順書

二、毘沙門護世之天尊略縁起





毘沙門護世之天尊略縁起

抑尾州名古屋法心寺の毘沙門は、大師遍照金剛乃真作なり。

この天尊はすなはち多聞天王にて、楠多聞兵衛正成といひし勇将も、この多聞天王の請子にて、家の断絶をあはれみ、子孫をあたへて家系つがしめたまへるより、この世の利益きはもなきことは、毘沙門天経に世尊釈迦如来の説の如く、ひだりの御手の宝塔には八万四千の法蔵を具して拝する者に、無量樂をあたへ、右の御手の如意宝珠は飲食衣服無量財宝信力如意に涌出る。其外数多無尽福愛敬福長命福を始とし、田地福蚤養福等にいたるまで、阿難の聞持ありし事経文に明白なれば、自念じてしるべし。弘法大師何ぞいたづらに彫刻あらんや。今信仰の人も其使令咳の顕現を見て寒心することあり。昔この寺清洲の南岳院たりとき、信長公此尊を念じて出陣あるに、勝利のみなるがゆへに、他国の陣所へ移れんもしらずとて、かくして尊像を隨身して住僧行衛しれず。のちにまた立かへりて、元のごとく當寺に安置奉る靈像なり。

文化十二年<sup>亥</sup>三月

林光山南岳院法心寺第九世勝空嶺超謹白 印

名古屋の寺院に関する木版資料について(十三)

<p>例年正月十五日 毘沙門天王於御寶前開運福引</p>	
<p>第一御闌</p> <p>毘沙門天王御厨子入 麦ふゆ入 毛縁</p>	<p>第二</p> <p>天王彩衣御敷毛縁 弓毛縁白羽矢千反</p>
<p>第三</p> <p>四 八寸後毛面 所祈請所札 藤子毛對</p>	<p>拾々闌</p> <p>天王御敷 毛反 弦懸掛 毛</p>
<p>五拾節闌</p> <p>四彩衣御敷毛縁 六雲目釋 毛巾</p>	<p>百番闌</p> <p>吉祥天女 毘沙門天王 厨子入 禪尼御堂子 雲采風巾入 毛縁</p>
<p>花闌百本</p>	

三、毘沙門天王於御宝前開運福引

例年正月十五日  
毘沙門天王於御宝前開運福引

第三

同 錢箱 壹

平

同 火打金 壹

拾々節

同 算盤 壹面

五拾節

同 大豆 壹斗俵

百番鬮

同 小豆 壹斗俵

第一御鬮

毘沙門天王御厨子入  
麦五斗入 壹俵

第二

天王彩色御影壹幅  
弓壹張 白羽矢壹双

第三

同 八寸鏡壹面

平

御祈祷御礼  
扇子 壹対

拾々鬮

天王御影 壹枚  
弦懸枿 壹

五拾節鬮

同 彩色御影壹幅  
六貫目秤 壹本

百番鬮

吉祥天女  
毘沙門天王厨子入  
禪尼師童子  
玄米五斗入 壹俵

花鬮百本

第一

天王開運御守  
八寸釜 壹口

第二

同 さんとめ綾 壹反

惣当り式百本、右之品々加持祈祷救座有之候間、其旨御心得可被成候。尤木札二名所御記し被成、御初穂拾式銅ツ、御添。十五日正四力時迄ニ御差出し可被下候。

尾州名古屋 法応寺

円満講中



四、日蓮聖人涅槃図

道妙禪門

阿□□□  
日満

妙林日貞

日頂上人

日像上人

日住禪門

日常上人

朗慶上人

妙了尼

日家上人

寂蓮坊

日昭上人

日向上人

日持上人

妙法尼

日奥上人

日朗上人

妙一尼

持妙尼

三□入道

中奥入道

一谷近藤小次郎入道

宿谷入道光則

高橋入道

小早川図書頭

上野五郎左衛門尉

弁殿

平賀忠晴

千日尼御前

九郎令郎妻

栈敷女房

本間九郎左衛門重連

下山四郎

□□弥三郎伴  
弥三郎

九良太郎

秋元政重

松野六郎左工門

形部左衛門尉

四条金吾頼基

太田禪門乘明

大久保新八郎

貫名藤平重友

内房女房

石川右衛門尉義弘

貫名藤太重政

田中孫四郎

六郎次郎

荏原義宗

南条兵衛

比企大学三良能本

熱田法華堂妙光山本遠寺什宝

曾谷入道教信

亀王丸

弥源太入道

池上右工門大夫

星名五郎

池上右工門大夫妻

日安御前

池上左工門大夫

日妙御前

池上左工門大夫妻

椎池四郎

池上兵工志

新池左衛門尉

波木井六郎実長

進士太良

藻原殿

大井莊司人

乙御前

熊王丸

経王御前

四条金吾妻

南部三郎

金吾倅  
久次郎

南条平七郎

## 五、日親大聖人御難之図



## 日親大聖人御難之図

## 薙染得道第一

抑、御父は埴谷左近将監、御母は藤原氏也。応永十五年<sub>丁亥</sub>四月八日御誕生、御幼名寅菊丸と申奉る。御年十四才にして、正中山に登り、日せん上人を師として御剃髮遊し日親と改玉ふ。

## 発誓感瑞第二

応永卅三年御年廿才にして誓を起給ひて、其年の秋より冬迄かけ、正中山の墓所へ一百夜籠らせ、強盛の御誦経遊されけるに、百夜満日に三宝諸天高祖大士の御告をこふむらせ給ふ。

## 試忍力第三

此時御年廿一才なり。是より広大の御弘通を思召立給ひける。然るにさま／＼の横なん来る事深く考合ありて、いくばくの大難たりとも忍ん事を、試のため一日に一ツの指の爪をはなし、十日に十指の爪をぬき、其爪の□へことごとく針をたて、にへ湯に入させ給ふ。

## 上洛弘法第四

応永卅四年未正月、正中山を御立あり。同二月八日、京都へ登らせ一条戻り、橋の辺りにて念仏無間折伏の辻説法し給ふに、刀杖瓦石の難を受給ふ。是御難の最初也。

## 火責難第五

永享十一年、立正安国論にならべ二巻をつづり治国論と名づけ、将ぐん義教公のもとへ遣し、天長地久なる事をいさめ給へども用ひ給ひず。あまつさへ上人三十四才の時、二月六日にして縄をかけ、獄屋へ禁めたり。或時火せめにしけると、煙の中にただ誦經の御声のみなり。

## 打擲難第六

□霜のすさまじきに、上人を引出しはだかにして梅の木にしばり、夜もすがら数人集り打たたき、弥陀を頼と念仏を唱ふべしとせめまいらせければ、仏法を得て永々劫の間八寒地獄の苦しみを受る事思へば、芥子粒を以て□□を□如しと上人御答遊されける。

## 浴室難第七

風呂をこしらへ上人を入まいらせ、戸をとちて湯たく事三時

余り、然るに唱音もなかりしゆへ戸をひらきみるに、上人いささか御かはらせなく、大火所焼時、我此土安穩と只一心に御誦經あり。

## 水責難第八

獄屋の天井より尺にあまれる大釘を数本打ければ、居住立せ給ふ事ならず。或時は引出し、強勢の木責になしけれども、格別の御苦勞にも思召さず、金言を守らせ給ふなり。

## 焼鍬難第九

將軍義教公立出給ひ、上人嘸満ふくならん。水の出る口を明て呉んと竹の串を持って、陰物を強くなやまし、なを又冷候わんとてくれないのごとくやきたるくわを両脇へ抱せまいらせける。

## 焼鍋難第十

種々に手品をかへ責なやますといへども、上人少しも御頓着なければ、將軍なをくにくませ、此うへは仕方なく火のごとく鍋をやきいただきにかぶらせしめたり。是より鍋冠日親上人とぞ時世の人々申奉るなり。

## 舌切難第十一



嘉吉元年の春、將軍家へ上人過言遊ばし、行者をなやませし現罰今日より百日の間に頭れんと仰られければ、義教公立拔めされ。上人の舌を切らせまいらす。夫より九十九日目に赤松が為に義教公むなしくなり給ふ也。

#### 獄屋難第十二

本阿弥右門三郎と申人、將軍をいさめ奉るに、御意をそむき上人と同く牢へ入し故、昼夜御教化に預り、無二の信者となり五百三日め上人と同時に赦免あつてより本阿弥三郎利益をかふむる事おびたゞし。

#### 播州横難第十三

諸国御弘通遊ばし播磨の国にいたり。諸宗無得道の義理を示し給へば、権門のやから数百人来り害せんとしけるに、上人泉州堺までのかれさせ給ふとかや。

#### 本山建立第十四

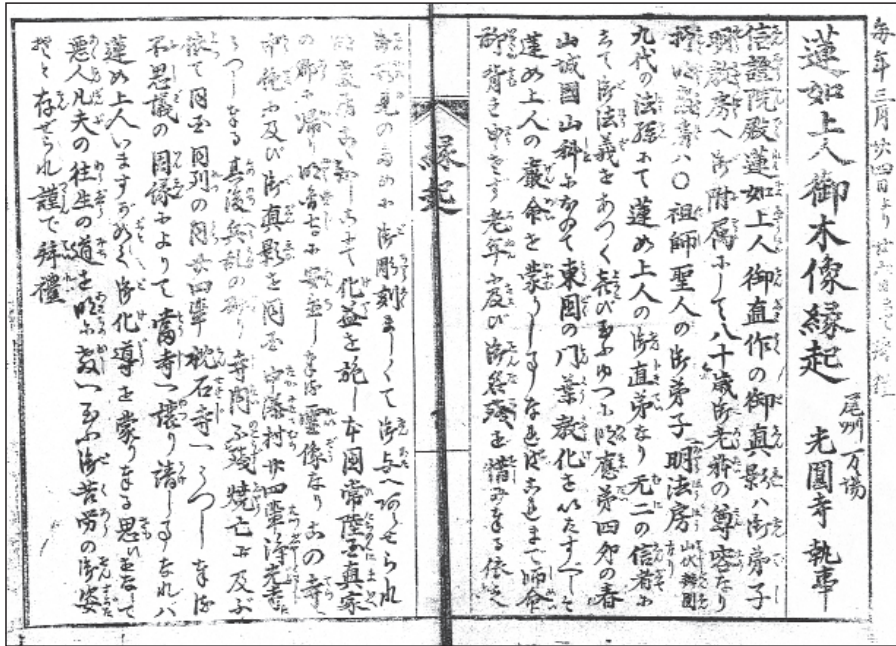
数年来の御心願に付、大難八度小難教知らず御かんなん遊ばし。文明八年上人七十才にして、京都叡昌山本法寺を成就し給へり。則大地也。

#### 示寂第十五

長享二年九月十七日御入滅也。御建立の寺院三十六ヶ寺御弟子衆にあたへられ、本法寺にして頭北面西、御寿八十二才也。

尾州惠眼山真柳寺

### 六、蓮如上人御木像縁起

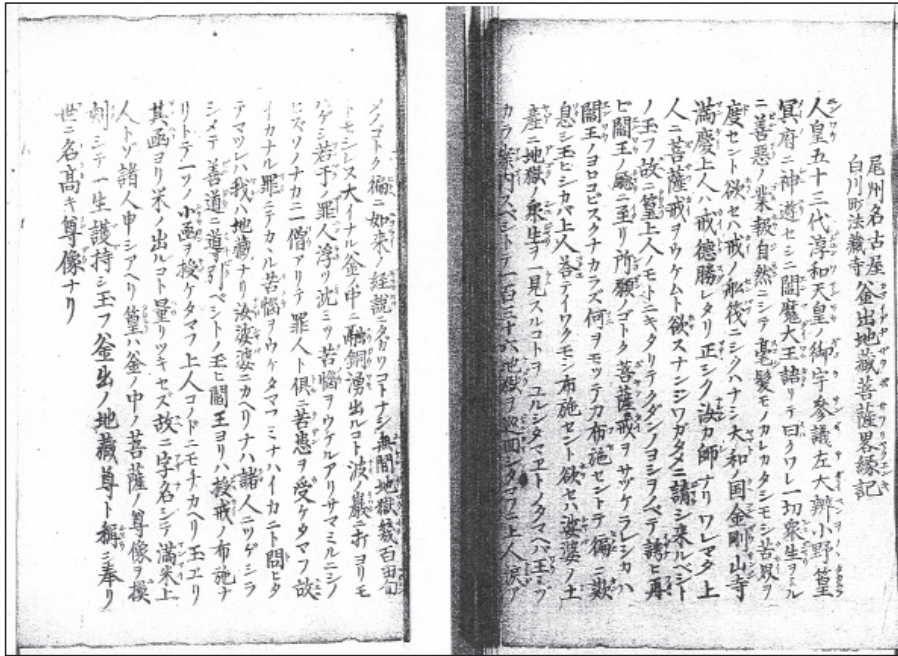


毎年三月廿四日より廿六日まで

蓮如上人御木像縁起  
尾州万場  
光円寺 執事

信証院殿蓮如上人御直作の御真影ハ御弟子  
明法房へ御附屬すして八十歳御老翁の尊容なり  
九代の法孫にて蓮如上人の御直弟なり元二の信者  
らるる御法義をあつく教ふ事ゆつし明法房四代  
山城国山科よ方の東國の門葉教化をいたす  
蓮如上人の歳余を蒙りし事なれば、これまで師命聊背き申さ  
ず。老年に及び御名残を惜み奉る。依之御形見のために御彫  
刻ましめて御与へあらせられ、明教房こゝかしこにて化益  
を施し、本国常陸国真家の郷に帰り、明円寺に安置し奉る靈  
像なり。この寺中絶に及び、御真影を同国中湊村廿四輩浄光  
寺えうつし奉る。其後兵乱の砌り、寺内不残焼亡に及ぶ。依  
て同国同列の内、廿四輩枕石寺へうつし奉る不思議の因縁に  
よいて、當寺へ譲り請し事なれば、蓮如上人いりますが如く御  
化導を蒙り奉る思いをなして、悪人凡夫の往生の道を明示教  
へ玉ふ御苦勞の御姿□と存ぜられ、謹で拝礼。

七、尾州名古屋 釜出地藏菩薩略縁記  
白川町法蔵寺



尾州名古屋 釜出地藏菩薩略縁記  
白川町法蔵寺

人皇五十三代淳和天皇ノ御宇、參議左大弁小野篁、冥府ニ神遊セシニ、閻魔大王語リテ曰ク、ワレ一切衆生ヲミルニ、善惡ノ業報自然ニシテ毫髮モノガレカタシ。モシ苦界ヲ度セント欲セハ戒ノ船筏ニシクハナシ。大和ノ国金剛山寺滿慶上人ハ戒徳勝レタリ。正シク汝ガ師ナリ。ワレマタ上人ニ菩薩戒ヲウケムト欲ス。ナンジワガタメニ請シ来ルベシトノ玉フ故ニ、篁上人ノモトニキタリテクダンノヨシヲノベテ誘ヒ、再ビ閻王ノ庁ニ至リ、所願ノゴトク菩薩戒ヲサツケラレシカハ閻王ノヨロコビスクナカラズ。何ヲモツテカ布施セントテ、偏ニ歎息シ玉ヒシカバ上人答テイワク、モシ布施セント欲セバ、娑婆ノ土産ニ地獄ノ衆生ヲ一見スルコトヲユルシタマエトノタマヘバ、王ミヅカラ案内スベシトテ、一百三十六地獄ヲ巡回シタマフニ、上人涙アメノゴトク偏ニ如来ノ経説ニタガウコトナシ。無間地獄幾百由旬トモシレヌ大イナル釜ノ中ニ、融銅湧出ルコト波ノ巖ニ打ヨリモハゲシ。若于ノ罪人浮ツ沈ミツ苦惱ヲウケルアリサマミルニシノビズ。ソノナカニ一僧アリテ、罪人ト俱ニ苦患ヲ受ケタマフ。故イカナル罪ニ

テカ、ル苦惱ヲウケタマフ。ミナハイカニト問ヒタテマツレ  
 バ、我ハ地藏ナリ。汝娑婆ニカヘリナバ、諸人ニツグシラシ  
 メテ善道ニ導引ベシトノ玉ヒ、閻王ヨリハ授戒ノ布施ナリト  
 テ、一ツノ小函ヲ授ケタマフ。上人コノドニモチカヘリ玉エ  
 リ。其函ヨリ米ノ出ルコト量リツキセズ。故ニ字名シテ満米  
 上人トゾ諸人申シアヘリ。篋ハ釜ノ中ノ菩薩ノ尊像ヲ模刻シ  
 テ一生護持シ玉フ。釜出ノ地藏尊ト称シ奉リ世ニ名高キ尊像  
 ナリ。

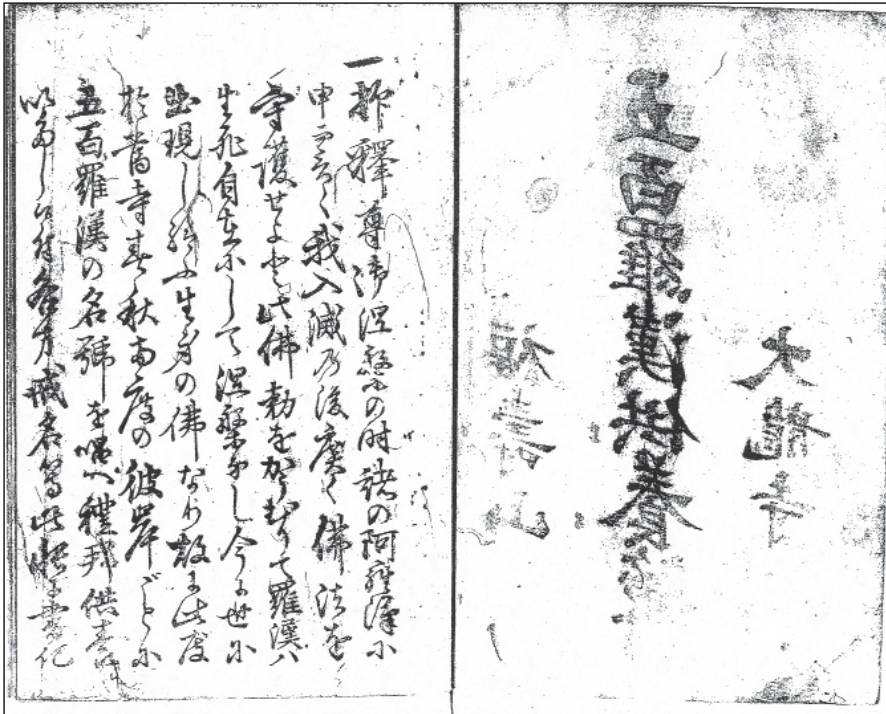
八、奉擬日本西方四十八願所名古屋御城下巡拝

奉擬日本西方四十八願所名古屋御城下巡拝			
一光 建中寺	二光 相感寺	三光 自念院	四光 車田院
五光 貞祖院	六光 遍照院	七光 普蓮寺	八光 普光寺
九光 言岳院	十光 光照院	十一光 東亮寺	十二光 林松寺
十三光 宝周寺	十四光 西蓮寺	十五光 誓教寺	十六光 香輪寺
十七光 宝周寺	十八光 蓮華寺	十九光 光明寺	二十光 普林寺
廿一光 香輪寺	廿二光 誓教寺	廿三光 西光院	廿四光 法感寺
廿五光 易盛寺	廿六光 陽安寺	廿七光 法苑寺	廿八光 徳林寺
廿九光 法安寺	三十光 阿彌陀寺	卅一光 化子院	卅二光 梅樂寺
卅三光 七ツ寺	卅四光 法華寺	卅五光 梅香院	卅六光 茶臼寺
卅七光 法安寺	卅八光 雲心寺	卅九光 普樂寺	四十光 誓教寺
四十一光 法安寺	四十二光 益仁寺	四十三光 聖徳寺	四十四光 壽壽山
四十五光 法安寺	四十六光 仙寺	四十七光 法林寺	四十八光 正堂寺

四十五ばん 市場 蔵福寺	四十一ばん 田中町 清雲寺	卅七ばん ひよき 法然寺	卅三ばん 七ツ寺	廿九ばん てん道町 清安寺	廿五ばん 同 尋盛寺	廿一ばん 同 寿経寺	十七ばん はざした 宝周寺	十三ばん ぜん寺町 玄周寺	九ばん 高岳院	五ばん とねり町 貞祖院	一ばん 建中寺
四十六ばん そぶくめ 高仙寺	四十二ばん 同 藤江寺	卅八ばん あつたはたや町 雲心寺	卅四ばん やば 清浄寺	三十ばん もんぜん町 阿弥陀寺	廿六ばん 同 瑞宝寺	廿二ばん 同さくら 誓願寺	十八ばん みづ車 蓮華寺	十四ばん するが町 西蓮寺	十ばん とくほんちう 光照院	六ばん なべや町うら 遍照院	二ばん 相応寺
四十七ばん てんま町 法林寺	四十三ばん 太子町 聖徳寺	卅九ばん 同 寿琳寺	卅五ばん 梅川町 梅香院	三十一ばん 同 性高院	廿七ばん 同 法蔵寺	廿三ばん 同 西光院	十九ばん いしきり町 光明寺	十五ばん ひさや町 誓願寺	十一ばん ぜんでら町 東充寺	七ばん なべや町うら 養蓮寺	三ばん くろたに 自然院
四十八ばん 同 正覚寺	四十四ばん 亀井山	四十ばん □の御門前あまでら 誓願寺	三十六ばん 大ぼとけ 栄国寺	三十二ばん 同 極楽寺	廿八ばん てん道町 徳林寺	廿四ばん 同 法応寺	廿ばん 同 養林寺	十六ばん ふくろ町かんつう 円輪寺	十二ばん 同 林松寺	八ばん ぜんのうじ筋 善光寺	四ばん 平田院
奉擬 日本 西方 四十八 願所 名古屋 御城 下 巡 拜											



九、五百羅漢供養簿



五百羅漢供養簿 福寿山大竜寺

一、抑釈尊御涅槃の時、諸の阿羅漢に申て言く、我入滅の後、  
 広く仏法を守護せよと。此仏勅をかうむりて、羅漢は生死  
 自在にして涅槃なし。今に世に出現し給ふ生身の仏なり。  
 故に此度、於當寺、春秋兩度の彼岸ごとに、五百羅漢の名  
 号を唱へ礼拝供養いたし候付、各方戒名等、此帳に書記  
 可被成候。則位牌に書写し、永代兩度の彼岸に無憶慢回向  
 いたし候。就ては、先祖為菩提は勿論、現世には子孫繁  
 榮、病難災難除、後生には成仏うたがひなし。依之十方檀  
 信、此志を集者也。

但し戒名一靈に付、永代供養料

銀言匄つゝに御座候間、御志御施入可被下候。



十、小野篁卿御作延命地藏大菩薩略縁起

小野篁卿御作

延命地藏大菩薩略縁起

尾州愛知郡古井村

芳珠寺

於當寺小安置（なほ）迦羅陀山延命地藏  
 大菩薩（を）傳（ふ）日本國乃（も）三折（の）尊像  
 小野篁卿六道の辻伊豫松山（に）當寺（に）打（た）つ  
 出（し）出（し）寺（に）於（に）縁（を）なりその由（を）末（に）とあ（ら）くた（づ）ね  
 奉（ら）る人王五十四代仁明天皇の御宇東海の  
 末路（に）もや小野篁卿（が）當寺（に）奉（ら）置（け）の折（ら）り  
 此延命地藏（を）於（に）於（に）刻（を）し終（に）ひあ（ら）じ（に）自（ら）乃  
 壽（を）像（を）も作（ら）せ末（の）の形見（も）も残（し）置（給）へり  
 寺（に）および當寺（の）尊像（なり）その由（を）委（し）くた（づ）ね奉（ら）るに  
 日（に）王五十四代仁明天皇の御宇承和のころとかや小野篁卿  
 當國（に）來遊（し）の折（ら）から此延命地藏尊（を）彫刻（し）給（ひ）ならび  
 自（ら）の壽像（を）も作（ら）せ末（の）よの形見（も）も残（し）置（給）へり  
 其後（一）字（の）道場（を）造り安置（し）奉（ら）るに靈驗（日）に増（し）あら  
 たなる事今の世に至るまでたえせぬことになりける。夫地  
 藏菩薩と申奉るは六道の能化（として）大悲（も）て一切衆生  
 の苦しみに代り給ふ。御誓願（ま）しまして（は）釈迦牟尼如来切  
 利天宮（に）おゐて御說法（の）ちなみ地藏菩薩（を）召（て）告（給）ふ  
 は汝二仏中間（の）導師（として）一切衆生の身を守り三惡  
 道におとさしめず当来（ひ）ようぶつ彌勒（仏）の出世（に）至（り）な  
 ば残りなく成仏（な）さしめよとの給ふとき地藏菩薩（は）仏勅  
 に背かじと有（し）こと地藏本願經（に）説玉（ふ）がごとし。しかれば

小野篁卿御作

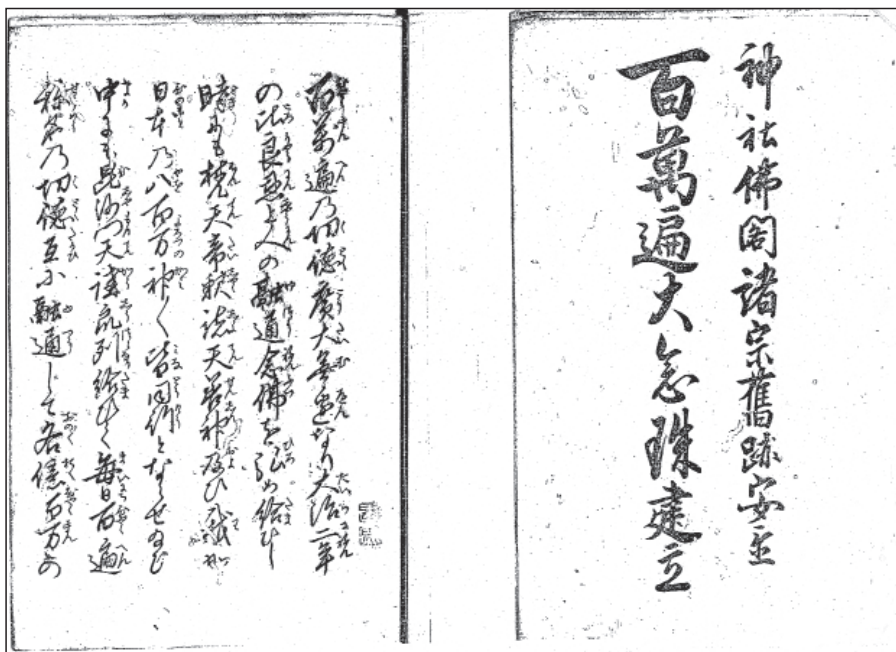
延命地藏大菩薩略縁起

尾州愛知郡古井村 芳珠寺

抑當寺に安置し奉る迦羅陀山延命地藏大菩薩は、伝へ言ふ日  
 本国のうち三折の尊像にして、京都六道の辻、伊予松山、篁  
 寺および當寺の尊像なり。その由来を委しくたづね奉るに、  
 人王五十四代仁明天皇の御宇、承和のころとかや、小野篁卿  
 當國に來遊の折から、此延命地藏尊を彫刻し給ひ、ならび  
 自の壽像をも作らせ、末のよの形見とも残し置給へり。  
 其後一字の道場を造り安置し奉るに、靈驗日に増し、あら  
 たなる事今の世に至るまでたえせぬことになりける。夫地  
 藏菩薩と申奉るは、六道の能化として、大悲もて一切衆生  
 の苦しみに代り給ふ。御誓願まして、釈迦牟尼如来切  
 利天宮におゐて御說法のちなみ、地藏菩薩を召て告給ふ  
 は、汝二仏中間の導師として、一切衆生の身を守り、三惡  
 道におとさしめず、当来ひようぶつ彌勒仏の出世に至りな  
 ば、残りなく成仏なさしめよとの給ふとき、地藏菩薩は仏勅  
 に背かじと有しこと地藏本願經に説玉ふがごとし。しかれば

一たび結縁せし輩は、地獄におとさじと日ごとに地獄に至り。もしや縁にふれしものありぬれば、自身を分て其苦に代り給ふ事、延命地藏経に明らかなり。昔小野篁、矢多寺の満慶上人を伴ひ、閻魔王をして受戒せしめたまふことあり。其時閻魔王宮へ通ひ給ひし処を、京六波羅のほとり、今に六道の辻といふこれなり。満慶上人地獄におゐて地藏菩薩にま見え、正しく苦に代り給ふみすがたを見まゐらせし事、上人の伝に委しく載たり。また篁卿は、神変不思議は化人にして、昼は日本の天子に仕え奉り、夜は幽冥界にあそび五道の冥官の闕たるを補ひたまひし事篁の伝に見えたり。かゝる聖者の御作なれば、此尊を深く信心帰依し奉れば、現世に苦をまぬかるはさらなり。後生は菩薩にいさなはれて成仏得脱せむこと経説をなうたがひ給ひそと。あらましをしるしぬ。

十一、神社仏閣諸宗旧跡安置百萬遍大念珠建立



神社仏閣諸宗旧跡安置 百万遍大念珠建立

月 日

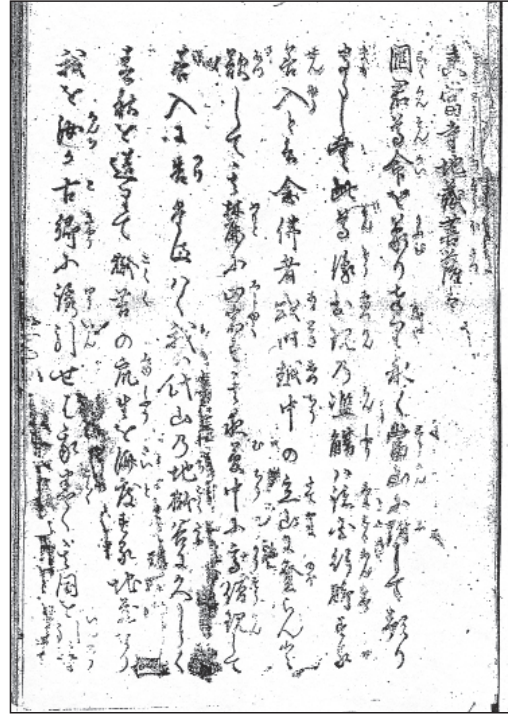
橘町

栄国寺

知事

百万遍の功德広大無辺なり。大治二年の比、良忍上人の融通念仏を弘め給ひし時にも、梵天、帝釈、諸天、善神及び我が日本の八百万神々、皆同所とならせ給し、中にも毘沙門天講衆列給ひて毎日百遍称名の功德互に融通して、各億百万の功德を得んと侷め給へり。猶融通念仏の縁起に審なり。善光寺如来并閻魔大王功德日百万遍を勧給ふに、月も日も功德も□□もひとしく違ふことなく、難有御告なりと。八事山諦忍和上随喜して、功德日百万遍修行し玉ふ。爰に徳本行者日本六十余州靈仏、靈社、女人禁制の靈場迄、百万遍の数珠の内に安置せば、参詣の功德を結縁すべし。別して女人は禁制の靈仏、靈場居ながら拝し奉るなりと難有勧誘なり。今般其大念珠弘通に付、第二転を造り猶更諸人結縁し、罪障消滅せんと予か志願也。仰願は信心之輩、志所之仏神を数珠之内安置し玉ひ、其施主名前、先祖の法名相記、永世結縁せば、現世安穩後生極楽億百万の功德を得ん事無量無辺なりと尔(歎)云。

十二、尾府矢場地蔵尊縁起



夫當寺地蔵菩薩は  
 国君尊名を蒙り奉り、永く當山に附して預り守らしむ。此  
 尊像出現の濫觴は、諸国行脚する善人と云念仏者、或時  
 越中の立山に登らんと欲して、其麓に止宿す。其夜夢中に  
 高僧現して善人に告たまはく、我は此山の地獄谷に久しく春  
 秋を送りて獄苦の衆生を濟度する地蔵なり。我を汝が古

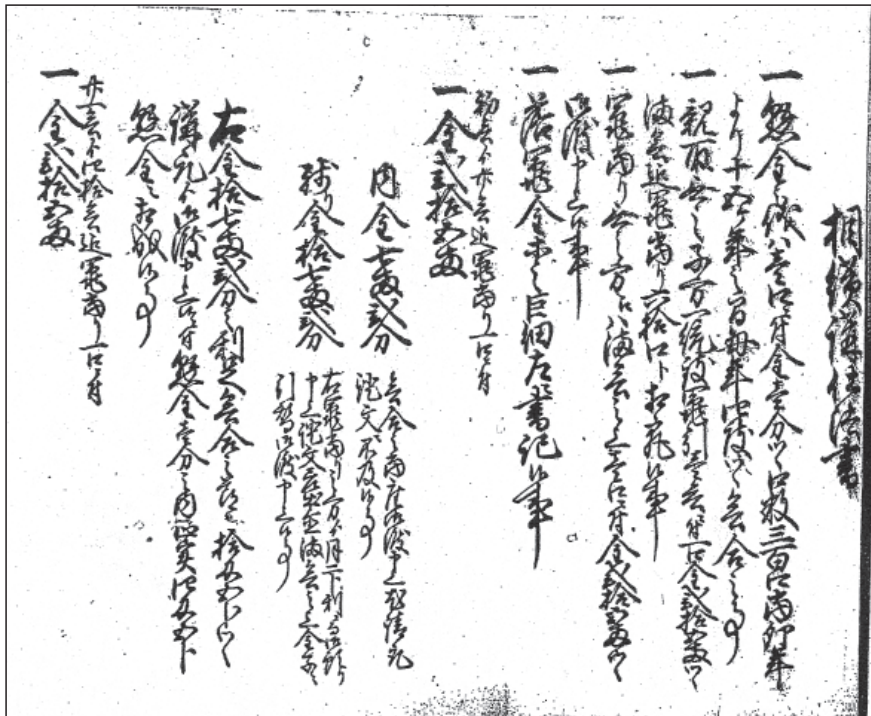
郷に誘引せば、我悉く其国を引導せんと。面見て夢醒  
 ぬ。善入奇異の思ひをなし、同じ行脚の者に語り、翌朝と  
 もに雲霧を侵し、山に登り劍難の道を経て地獄谷と称する  
 所、次第に遍覽するに、焦熱地獄となん名る谷有て地上よ  
 り火燃、岩下より湯沸出る事胆を冷し魂を消す。其傍に  
 一点の光を放ち髣髴たるものあり。善入同朋と共に近く寄  
 て見れば、前夜の夢に入給ひし地蔵尊像なり。善入夢中に感  
 する所、是に心せりと歡喜抑躍して、別當の山僧に告、本  
 国に奉持せん事を願得て、則笈に納め国に帰り、暫  
 濃州可兒郡御當村に安置し、其後當国に移し奉る。それ諸仏  
 菩薩は平等の大悲にして、いつれも利益限りなしとはいへ  
 とも、わきて地蔵菩薩は別願の子細有て、末世の衆生をう  
 けかい給ひ、悉度し尽むと誓給ひにしかは、衆生順  
 逆ひとしく結縁し奉れば、利益を蒙り靈瑞有事もとより世  
 の知る所なり。當寺に弥陀如来御安置の、ち別堂を建て、諸  
 人結縁の為に安置すへき旨、此尊像を蒙り一字を修營し、  
 尊像を移せり。

猶来由  
縁起に委

清浄寺



十三、敬円寺相統講



相統講

敬円寺

講元世話方人

日置村旦方

定日 八日 惣代 孫右衛門

二月 五月 同断 孫 蔵

八月 十一月 且方惣代

同断 京姥屋 善 六

同断 米沢屋 彦兵衛

同断 若狭屋 小兵衛

同断 福島屋 喜 助

同断 加み屋 庄 蔵

同断 いさば屋 源兵衛

同断

同断

同断

同断

同断

㊦□月 ㊦□月 ㊦□月

壹匁 貳匁 三匁

相統講仕法書

一懸金之儀は壹口ニ付金壹分つ、口数三百口、當卯年より

十五ヶ年之間、毎年四度つ、会合の事

一親取無之子女一統致鬮引、壹会に付、一口金貳拾五兩

つ、満会迄鬮当り六拾口と相究候事

一鬮当り無之片えは満会之上、壹口に付金貳拾五兩つ、御渡

申上候事

一落鬮金等之巨細左に書記候事

初会より廿会迄鬮当り一口に付

一金貳拾五兩

内金七兩貳分 会合之當座御渡申上、尤請取

証文不及候事

残り金拾七兩貳分 右鬮当り之方より月式分利にて御預

り申上証文差出置、満会之上金子に

引替御渡申上候事

右金拾七兩貳分之利足会合之節に拾匁五分つ、

講元より御渡申上候に付、懸金壹分之内、正実四匁五分懸  
金に相成候事

廿一会より四拾会迄鬮当り一口に付

一金貳拾五兩

内金八兩三分 前条同断

残り金拾六兩一分 同

右金拾六兩壹分之利足会合之節に九匁七分五厘

つ、講元より御渡申上候付、懸金壹分之内、正実五匁貳分

五厘つ、之懸金に相成候事

四拾一会より満会迄鬮当り一口に付

一金貳拾五兩

内金拾兩 同断

残り金拾五兩 同

右金拾五兩之利足会合之節に九匁つ、講元より

御渡申上、懸金壹分之内、正実六匁つ、之懸金に相成候事

一初会より会合之節々寄金之内、落鬮金御渡申上、

残金并預り金共不残加入之御方え金壹兩に付



一ヶ月五分五厘之利賃物引當貸渡、会合之節に  
 利銀計り請取、元金之儀は満会之上講元より  
 御渡申上候金子を以差継訳立之事

卯十一月

十四、四宝山珉光院円通寺略縁起

四宝山珉光院円通寺、  
 桂吉清和天皇の孫孫子にて八幡太郎義家四代の後胤皇孫  
 源の義朝の四男源三郎義近の問基より義近申入して勢州桑名  
 郡長島小住居しあり時より御父義朝尾州知多郡沼の内海  
 中へ長田止所を逆心し後々無愛と教害せりもあふ義近是と  
 深く難さに沈みあひ且岳の興敗と感し父の菩提を弔はん為に海  
 空浴衣にて一字と建し一圓道大來寺と号ひ幸しく南都天台宗  
 流と汲みよとの紀本尊と安んず意小住ん事と惹て思ひ煩ひあ  
 りに云來夢中心一人の化僧來て告めよ後我法坊令止りて有縁の衆生  
 今一法教と名置せよと愛さむと増上をなせ聖徳太子の尊  
 像慈尊と名置し立かふ義近入道出流をむとひ發願して夫より本尊と思ひ  
 奉り朝暮代給仕念ふよりより三たび成道と成て貞承元年の瑞  
 尺州海東郡鹽津の柳小島地は然るに嘉貞元年聖人關東の御叱  
 遣とむとられ都に還御の御時と當洋の御と適てあふ不思議な  
 りあつちの天子ささかす生かす人の如く立玉ひて聖天の御手と取て聖  
 胎引入しあふし時の住僧夢の中拜見し何ぞ尊人かてまよりまをそ  
 御勅化と成念天台宗と改て御弟子とあり夫より御齋跡とあり  
 て其後慶長年中今の珉光院と同國名古屋小移す如此物くつり  
 屋の跡とて奉と隔て所と處よりも兵衛が當院と安置し奉り  
 管領孫八木傳次郎と付と茲に畧縁起如此

四宝山珉光院円通寺は、往昔清和天皇の裔孫にして八幡太郎義家四代の後胤左馬頭源の義朝の四男源三郎義近の開基なり。義近ゆへ在て勢州桑名郡長島に住居し玉ふ。時なる哉御父義朝、尾州知多郡沼の内海にて、長田庄司が逆心に依て無<sup>レ</sup>愛も殺害せられ玉ふ。義近是を聞、深く難きに沈み玉ひ、且世の興敗を感じ、父の菩提を弔はんが為に出家染衣して一字を建立し、円通大乘寺と号す。ふかく南嶽天台の流を汲玉ふ。そのとき本尊を安ん事意に任ん事を恐て思ひ煩ひ玉ふに、或夜夢中に一人の化僧来て告玉ふ様、我法坊舎に止りて、有縁の衆生濟度すべし。汝我を安置せると夢さめて壇上をみれば、聖徳太子の尊像忽然として立玉ふ。義近入道感涙にむせび驚難して、夫より本尊を崇め奉り、朝暮の給仕怠る事なかりしと云。夫より歳霜を歴て貞永元年の頃、尾州海東郡萱津の郷に易地す。然るに嘉禎元年、聖人関東の御化導をわらせられ都に還御の折から、萱津の郷を通り玉へは不思議なるかな、この太子はさながら生る人の如く立出玉ひて、聖人の御手を取て堂内に引入し玉ふと。時の住僧夢の中拝見し、何ぞ常人にてましまさんとて御

勸化を受、忽天台宗を改めて御弟子となり、夫より御旧跡となりて、其後慶長年中、今の珉光院を同国名古屋に移す。如<sup>レ</sup>此物かわり、星うつりて年を隔て所をへだつれ共、代々當院に安置し奉る靈像なれば、委曲は本伝にうつりて荒々略縁起如<sup>レ</sup>此。



十六、古今尾州味噌見立相撲

天保七年新板

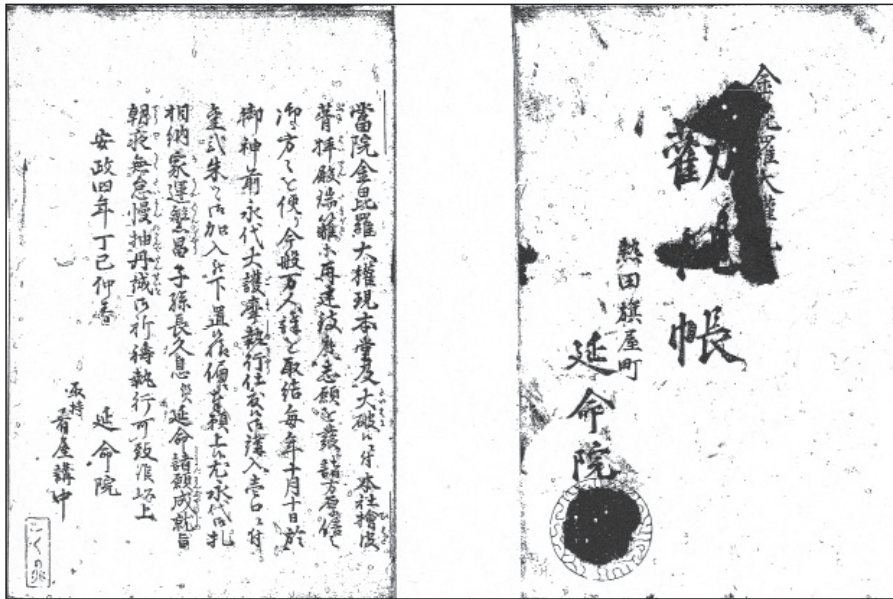
大関	豊隆の日本一の宗室の封国	前	日本一の口一の宮重大根	懸所の日本一の東本坊	血池の日本一の柿並大坊	愧偏の同	萱津ノ古駅
関脇	立身の豊臣太閤	同	力僧の道場法師	玉の奥の高台寺政所	清潔の同行の同	同行の同	中島門徒
小結	大名の前太納言	同	流物の藪香物	勇持の柴田勝家	行粧の同行の同	同行の同	猿頭硯
前頭	重閣の楼上の金鱗	同	絵材の堀川材木	念仏者の常滑大瓶人	怪虫の同行の同	同行の同	日本左衛門
前頭	俗人の尾張連浜主	同	走馬の長田庄司	同族者の寺中村原田氏	揚ケ方の同行の同	同行の同	強盗の同
前頭	外材の浅井の骨継	同	快戦の熱田端午祭	同製の船印の扇の紋	古証文の同行の同	同行の同	古物の同
前頭	磁器の瀬戸の陶竈	同	美男の名古屋山三	同丘土の犬山鉤	大粒の同行の同	同行の同	古の同
前頭	三武国一の鬼上官清正	同	職人の瀬戸唐四郎	同比丘尼の誓願寺	竹画の同行の同	同行の同	熱の同

**古今尾州味噌見立相撲**

糞の俗語 見立相撲

差添	行司	差添
業新	往庭	集拾
記猿	來訓	遺遣
尾張	尾張	尾張
粗	八丈	米
元進	勸	藥品
式喜	延	四十六種

大関	日本一の草薙神劍	前	日本一の塩尻百卷	日香の日本一の前浜魚	修正の日本一の儼負祭	古墳の同	楊貴妃五輪
関脇	将軍の右大将頼朝	同	謀死の平手政秀	おふくろの天瑞寺大政所	花火の同行の同	黒鉄の同	知多壮男
小結	創業の織田右大臣	同	早船の阿野六月米	猛将の福島正則	怪談の同行の同	老狐の同	於小女郎
前頭	雨衣の作名の武蔵坊	同	奢侈の真福寺文庫	女たらしの良忍法師	浄土画の同行の同	窃盜の同	柿木島金助
前頭	強力の中島太領	同	東葉船の津島祇園祭	同製法の赤津染付	興服所の同行の同	絶景の同	絶景の世話人
前頭	目醫師の妻	同	横布の桶狭間戦場	同術の須義立氏	古木面の同行の同	尾張富士の同	尾張富士の同
前頭	天王の明眼	同	小姓の黒白の二筋引	同長大の元祖九耀ノ星	神主の同行の同	一宮の神宝	片草ノ三國嶺
前頭	能書の津島神社	同	不破の萬作	同放鷹の祖父江竿鷹	古井戸の同行の同	古木面の同行の同	玉野川の同
前頭	能書の前頭	同	陳元	同放鷹の祖父江竿鷹	古井戸の同行の同	古木面の同行の同	玉野川の同



十七、金毘羅大権現勸化帳

金毘羅大権現

勸化帳

熱田旗屋町 延命院

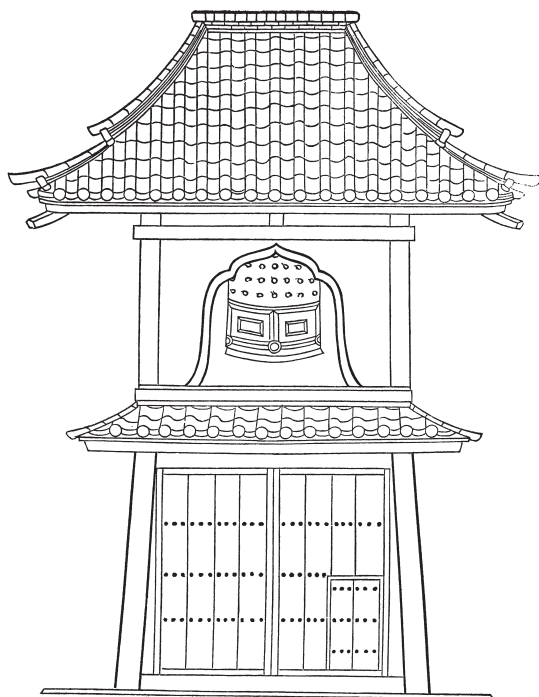
當院金毘羅大権現本堂及大破候に付、本社松皮葺拝殿・瑞籬等再建致度志願を發し、諸方厚信之御方々を便り、今般万人講を取結、毎年十月十日於御神前永代大護摩執行仕度候、御講入壺口に付、金式朱つ、御加入被下置候様、偏に奉願上候、尤永代御札相納、家運繁昌・子孫長久・息災延命・諸願成就旨、朝夜無怠慢一抽二丹誠一御祈祷執行可致候、以上

安政四年丁巳仲春

延命院  
取持  
看屋講中



## 十八、安齋院梵鐘勸化文



テ吾等新ニ鑄造セント欲スト雖トモ、綿力ノ及フ所ニアラス。尚冀クハ有信ナル諸彦一指ノカヲ協助シ玉ハンコトヲ。

當市松山町

明治二十六年二月

安齋院

梵鐘発起者拜白

謹ミ惟レハ、本院ハ当職ヨリ已来篤信ナル各彦ノ助力ニ因テ寺格ヲシテ法幢地ニ昇進セシメ、加之ナラス庫院再建ノ大挙ヲ翼賛シ玉フノ厚意ヲ辱ス。因テ宗規ヲ遵奉シ、特ニ学林ヲ開設ス。故ニ平素ノ衆僧殆ト三拾名ニ降ラスシテ勉学ス。然ルニ暗苦ノ迷暗ヲ破却スル一大法器タル梵鐘未タ備ラス。因

十九、慶栄寺本堂再建上棟式遷仏供養大会

慶栄寺本堂再建上棟式遷仏供養大会記念帖

阿原山慶栄寺開基ハ、清和帝ノ曾孫六孫王源經基ノ三男頼信ノ後胤ニシテ、永正元年善正法師寺ヲ阿原村ニ創シ、慶安二年第三世寿玄舎ヲ府中勝蔓寺町（今ノ皆戸町）ニ移ス。第七世哲休狭地ノ為メ、再ビ今ノ処ニ移転シ本堂ヲ再建ス。爾来二百十有余年伝灯シ、現任職ニシテ第十二世ニ及ブ。然ルニ、大正八年八月中旬不慮ノ火災ニ罹リ、資ヲ内外ノ檀信徒ニ勸進シ匠ヲ名工ニ委ネ、大正九年十月十八日地鎮祭ヲ行ヒ、翌十年一月四日起工式ヲ挙行ス。十一年三月四日立柱式ヲ行ヒ、十二年五月工事成シ、同月十二日上棟式ヲ挙行シ、同夜浄楽ヲ奏シ、儀列ヲ整ヒ僧網ヲ請ヒ四衆ヲ会シテ、恭シク、尊像ヲ新殿ニ安ズ。翌十三日遷仏供養ノ大会ヲ執行ス。然ルニ、両日共快晴ニシテ郡参堂宇ニ充滿シ、境内悉ク人ヲ以テ埋ムト云フモ過言ニ非ザル大会ヲ厳修スルヲ得タルハ、一重ニ皇徳ノ余沢ト、仏祖ノ加護ト、檀信徒諸彦ノ熱誠

ノ致ストコロナリ。依テソノ光景ノ一部ヲ撮影シ記念トス。

五月十二日遷仏列次第

乞鐘

先 驅 役僧々々々式事從僧 伶人々々

先 驅 役僧々々々式事從僧 伶人々々

僧網々々松火禪門持之 御檀 檀家總代奉昇同同  
僧網々々松火禪門持之 檀 檀家總代奉昇同同

山主 敷衣管從僧棒之 副住 從僧 檀頭 檀方  
香炬管從僧棒之 檀頭 檀方

檀方 同 信徒 同 同

檀方 同 信徒 同 同

遷仏式次第

乞鐘 午後八時

発楽

行列參進

入堂

僧網余間着座

金障子閉之

灯明立燭準備ノ事

僧網退出

鐘止

金障子開之

伶人出仕

外陣出仕

先乱声

次 出仕

下臈為先

次 着座楽

数衣管香炉管座具配之

祖師前焼香礼盤二向

次 登高座

次 焼 香

次 総三礼

三礼文同唱

次 如来唄

次 退出楽

次 下高座

御代前焼香

数衣管香炉管坐具撤之

次 退出楽

上臈為先

次 外陣退出

次 伶人退出

五月十三日列次第

先 驅 裱信徒 役僧 裱々々布衣

先 驅 裱信徒 役僧 裱々々布衣

布衣々々伶人々々童子々々々々外陣

布衣々々伶人々々童子々々々々外陣

持華籠

々々助音方々々入内衆々々童子 副住 童子

持華籠

童子々々数衣管徒僧 住職 数衣管徒僧

童子々々香炉管徒僧 裱々々後驅裱

裱々々後驅裱

大正十二年五月十三日

午後一時

遷仏供養法会差定

先乱声

出仕

次 着座楽

万歳楽

次 総礼

次 伽陀啓首天人

次 登高座楽

皇輦急

登高座

次 敬白文

次 伽陀先請弥陀

次 無量寿経 上

次 伽陀万行俱廻

次 賦華篋楽林歌

賦華篋

次 阿弥陀経漢音

行道散華

次 撒華篋楽

傾盃楽

撒華篋

次 下高座楽

抜頭

下高座

次 伽陀若聞此法

次 総礼

次 往生論偈

次 念仏讃

三首引

淘十

初重 弥陀成仏

二重 七宝講堂

三重 如来大悲

名古屋の寺院に関する木版資料について(十三)

位上曲

次 回向願以此功德

次 総礼

次 退出

次 退出楽

長慶子

退出 以上

太子堂記

推古天皇二年、南都元興寺ヲ聖徳太子御建立アリ。其五重ノ  
宝塔ヘ記念ノ為メ御自作尊像ヲ納メ玉フ。其後當寺九世義  
諦、同寺宝塔再建ニ尽力シ、其旧宝塔ノ古材ト同塔奉安ノ太  
子御自作ノ尊像トヲ元興寺ヨリ附属セラレ、此太子堂ヲ建設  
シ、聖徳太子尊像ヲ奉安スル処也

太子奉讃紀念碑

題字 (照世間) 大谷派前御法主現如上人御筆

句 澆季有情蓑虫に似しも

その慈悲に 句仏㊦

大谷派當法主彰如上人 御筆

歌 さきの世ゆ能ちの世かけて明らけき

御法のみちはひらきましけむ

侯爵従一位 久我通久御筆

太子堂紀念碑

南無仏太子銅像ヲ碑上ニ奉安ス。文学博士南条文雄師碑文及  
當山現任職僧都滝義道現了碑文ヲ録シ、数千顆ヲ以テ三部妙  
典ヲ書シ、自ラ碑下ニ埋藏ス。時ニ明治四十四年也。

大正十二年五月二十七日印刷 (非売品)

大正十二年五月二十八日発行

名古屋市西区橋詰町

阿原山



慶栄寺再建係

名古屋市東区相生町二丁目

撮影 織田写真館

名古屋市西区仲之町一ノ十一

印刷 小坂井製版所

二十、沢観音略縁記

沢 観 音 略 縁 記

夫れ當寺に安置し奉る七軀の観音菩薩は、何れも千有余年を経たる国の宝とも謂つべき尊像にして、弘法大師、慈覚大師、恵心僧都等の御作なり。今を去る事二百五十年前、當寺開基正直公深く大土を信仰し、西国の靈場を巡拝して靈験に浴し、倍々尊崇せらる。或時大土老翁と身を化し、夢中に告げて宣はく。西国浄土は道遠く、山坂越ゆる難路ゆへ、老幼の身にては巡拝し難し。去りとて空しく過させんも、誠に哀れなり。依て西国浄土の観音を自が邸へ移し奉安し、庶人に参拝せしめなば、功德廣大無辺なりと。茲に於て正直、西国三十三所の七観音を一堂に聚め安置し奉り、御告を全せんと欲し靈軀を搜索すと雖も容易に得る事能はず。齋戒沐浴して三七日の間身を浄め、速に靈軀を授け給へと祈り奉る。正直の心願、仏も感応ましく、願期の満る夜、不思議や再び独りの老翁現はれて靈軀の

有所ありかを教おしへ給たまふ。正直まさな大をに喜よろこび、教をしに從したがつて洛陽らくやうに走はしり、灘波なんばに馳はせ、遂ついに希ねごふ所ところの大悲だいひ七軀しちくの尊像そんざうを拜受はいじゆし、財さいを投とうじ身みを勞ろうし自をのが邸やしきへ宝殿ほうでんを建立こんりうして安置あんちし奉たてまつる。

即すなはち地獄ぢごく道能化どうのうけの千手じゆちう觀音かんのん、餓鬼道がきどうの教主けうしゆ聖觀音しようかんのん、畜生ちくじゆう道能化どうのうけの馬頭ばとう觀音かんのん、修羅道じゆらどうの教主けうしゆ十一面じゆんいちめん觀音かんのん、人道じんどうの教主けうしゆ如意輪いりん觀音かんのん、不空ふくう罽索けんさく大士だいし之これなり。是これを稱しょうして沢さわの七しち觀音かんのんと申まうしたてまつ。西国さいこく三十三所しよの觀音かんのんは此この七軀しちくなり。故ゆゑに沢さわ觀音かんのんを信仰しんじゆうすれば、西国さいこくの淨土じよつどを巡礼じゆんれいすると齊ひとしき功德くどくある事こと疑うたがひなし。仰あはぐべし沢觀音さわかんのん尊たつとむべし七觀音しちかんのん。

南区新尾頭町一ノ鳥居

沢ノ觀音 妙安寺

二十一、道祖金勢大神靈略縁起

道祖金勢大神靈略縁起

抑おさも當寺とうじに安置あんちする道祖神靈みちすぢかみは、昔むかし往仁和寺むじやうにわじ藤原兵衛兼家ふじはらへいゑかねが難波なにばの刑部左エ門けいぶさえもん国春くにはるの女明月姫にむせつぎめと云いひ美女こひめに恋こひし、男女情ななせなななまけの和合わがはも私わたくしならず、始終しじゆうの中の相生あいせいも神かみの結むすびなりとし縁結えんむすび道祖神みちすぢかみさちの神靈かみへ祈願きがんする事こと数旬しうじゆん、遂ついに願望ねがひ成就かなへりし姫ひめを伴ともなひ乳母ちち諸共しよとも東ひがしに行く途路みちすぢら、風光ふうかう明美めいなる當処このところに休やすひ、是これ清淨しやうじやうの靈地れいぢなり。斯かる勝地しょうぢへ道祖神靈みちすぢかみを奉安まつせば、庶人しやにんを利益りえきする事こと甚大しんたいなりとし、一ひとは報恩ほうおんの為ため異形いけいの真体まがたを安置おまつりすと云いふふ。

道祖神靈みちすぢかみとは幸さいちのかみとて、縁えんを結むすび男女おとこを幸さいわいす良縁よきえんを求もとめ、幸福しやうわせを求もとめんとする者ひと、妊よつぎを欲のぞむする者ひと、悪病あくびやまいになやむ者ひと祈願ひとして靈験れいけん著いちじしと爾しか云いふ。

熱田旧一ノ鳥居

富春山 妙安寺